

# IDDNewsletter..... 6

June  
2023



特集

## 科目「絵画表現」から

専攻科2年生の選択科目に「絵画表現」という科目があります。「絵画表現」では、水彩絵具やアクリル絵具等を画材とした従来の絵画表現と共に、タブレット端末を活用した制作を行っています。今回は4月から始まった授業の様子や内容について御紹介いたします。

# 科目「絵画表現」から

専攻科2年生の選択科目に「絵画表現」という科目があります。「絵画表現」では、水彩絵具やアクリル絵具等を画材とした従来の絵画表現と共に、タブレット端末を活用した制作を行っています。今回は4月から始まった授業の様子や内容について御紹介いたします。

いわゆるアナログな絵画表現については、水彩絵具の具やアクリル絵具、油絵具をはじめ、パステル、クレヨン、色鉛筆等の様々な画材が挙げられます。また画材だけではなく、支持体についても、キャンバスや紙、板など多様にあり、制作意図に合わせて如何様にも組み合わせることが出来ます。有史以前から始まった絵を描くという行為は時代と共に多様になり、現代においても最もメジャーで歴史の深い、表現方法といえます。

一方、デジタルな表現は、コンピュータ上でペイントソフトや画像処理ソフトを用い、モニターを見ながらペンタブレットを操作したり、タブレット端末の画面上に専用のペンや指で描いたりすることで実現します。現代において、急速に普及し、身近になった比較的新しい技術だといえます。

現在、授業では一つのモチーフに対して水彩画とタブレット端末を使ったデジタル絵画のそれぞれの手法で制作しています。この二つの手法を比較しながら、その制作方法の特徴や違いを学び、表現の幅を広げ、表現力の向上を目指します。学生は実技を通して、それぞれの特徴や違いをある程度、感じとっているようです。

例えば、デジタルな表現については、ペントールの種類が多く、用途に合わせて選べる点や直感的にパレットツールから色を選択できる点などの多機能性について挙げています。また筆や絵具等の道具の準備が必要でないため、効率的であ

るという意見もありました。意図せず、明暗や彩度が出過ぎてしまうという感想も挙がりましたが、こちらはソフトウェアの操作に関してまだ使い慣れていないため、技術的な面で使いこなすのに時間がかかっているようです。言い換えると、デジタル表現においては、使用する機器やソフトウェアについての基本的な知識や操作等の技能が必要になってくるといえます。

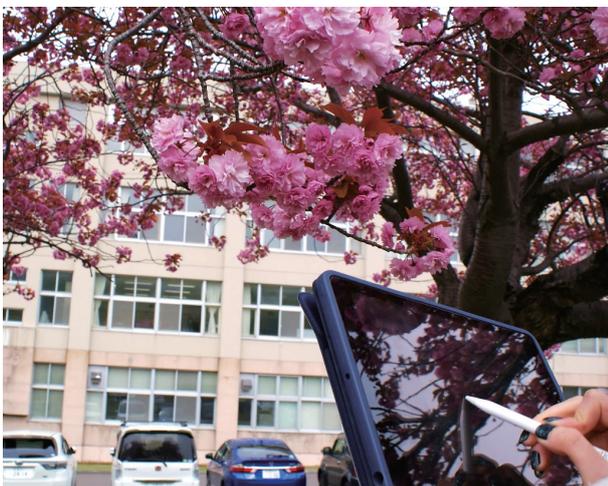
一方、水彩画による表現については、制作に時間はかかるが、意図せずに混ざった色や筆の跡が、面白い、良い雰囲気になる、といった偶然性の良さを挙げています。また、実際に筆を使って彩色していく過程自体に、絵を描いているという実感がある、といった感想もありました。

二つの方法について、学生の様子も踏まえてその特徴を少しまとめてみますと、

デジタルな表現の特徴については、

- ・ソフトの様々な機能を使い、簡単に修正したり、加工したりすることができる。
- ・画材等の準備を必要としないため、時間をかけずに手軽に描くことができる。
- ・複製の作成や保存を容易にできる。
- ・道具の準備やスペースを多く必要としない。

一方、アナログな表現の特徴は、



・実際に紙や筆に触れながら、表面の質感やマチエールを感じ取ることができる。

・制作の過程で生まれる偶然性も作品の味になることがある。

・複製ができないため、ただ一つの作品としての価値があり、展示や販売ができる。

等が挙げられます。

これらの表現方法の特徴を比較するとメリット・デメリットと捉えることもできますが、単純には分類できない側面もあります。例えば複製やコピーができるかどうかという観点では、一点ものの作品であるその唯一性に価値がある、といえますし、複製ができることでより多くの人に作品が手に届く、ともいえます。捉え方によってはメリットがデメリットになり、その逆もあるでしょう。またそれぞれの表現媒体そのものの成り立ちが異なるため、描く手順や感覚も当然異なり、そもそも比較自体が難しいともいえます。

ただ二つの手法で制作する学生の様子を見て、共通して感じることが基礎的なデッサンの力が必要であるということです。キャンバス上であれ、液晶モニター上であれ、描く行為は共通していて、描線はそのまま反映されます。言い換えるとデッサン力を高められれば、アナログ表現はもちろん、デジタル表現においても十分に反映し、応用していくことができるといえます。

基礎的な力を底上げしつつ、多様な表現を学び、それぞれの特性を自身の表現にどう活かしていくかが、大切になってくると考えます。学生にはそのような経験を積み重ね、思考や表現を拡張し、今後の作品に活かされることを期待したいです。

IDDN



# Contents

2-3

特集

## 科目「**絵画表現**」から

専攻科2年生の選択科目に「絵画表現」という科目があります。「絵画表現」では、水彩画やアクリル絵具等を画材とした従来の絵画表現と共に、タブレット端末を活用した制作を行っています。今回は4月から始まった授業の様子や内容について御紹介いたします。

*Welcome to Information Design Department!!*

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」をお読みいただきありがとうございます。

本校情報デザイン科では、広く全国から学生を受け入れています。聴覚障がいがあり、高等学校や中等教育学校等の卒業生（卒業見込みを含む）であれば、どなたでも出願資格があります。年齢も不問です。

授業料がかからないことに加え、低コストで、専門的な知識や技術を学べます。支援制度については、就学奨励費等の帰省や通学、食事等に関わるものがあります。また、寄宿舎があり、道内外問わず入舎が可能ですし、土日祝日も開舎していますので遠方からの入舎も安心です。本校情報デザイン科に興味がある方は、ぜひ本校までご連絡いただければと存じます。詳しくは、本校 Web サイトの情報デザイン科のページを御覧ください。

## ○オンデマンドによる入学説明会の開催

専攻科情報デザイン科では、次年度の入学説明会を6月2日（金曜日）よりオンデマンド配信いたします。詳細につきましては、Web ページ上での情報公開をしています。また、その旨のご案内を各関係機関に送付させていただきました。参加を申し込みいただいた皆様、ありがとうございました。

申込締切は過ぎましたが、希望者への個別懇談は、入学試験期間までに都度対応させていただきます。



情報デザイン科 **学科だより**

Information Design Department

# IDDNewsletter

June 2023 **6**

IDDNewsletter

June 2023

発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム

発行／北海道高等聾学校

〒041-0261 北海道小樽市銭函1丁目5-1

[www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp](http://www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp)

※ご意見、ご要望などにつきましては、上記 Web ページより電子メールでご連絡ください。